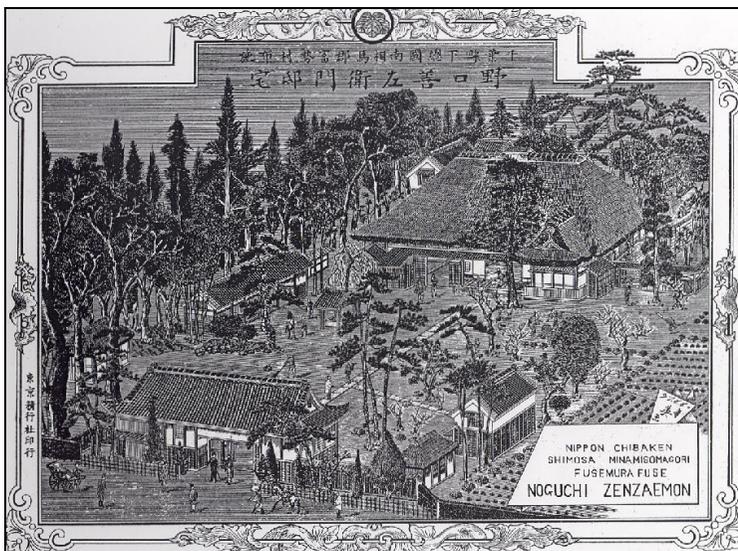


第二章 布施・久寺家と我孫子宿



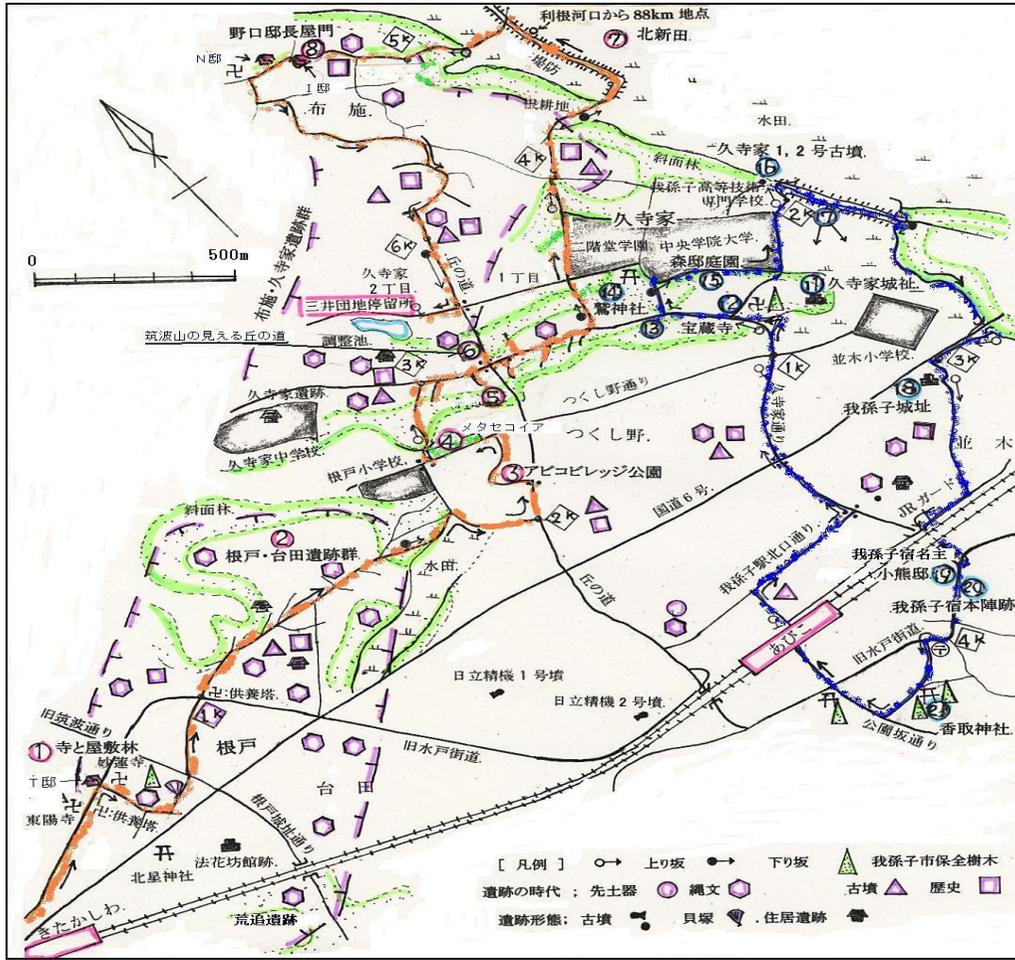
利根川河川敷の水田調節池の水田と 久寺家古墳の人物埴輪(*1)



銅版画に見る明治の豪農野口善左衛門邸 明治27年;1894)*2

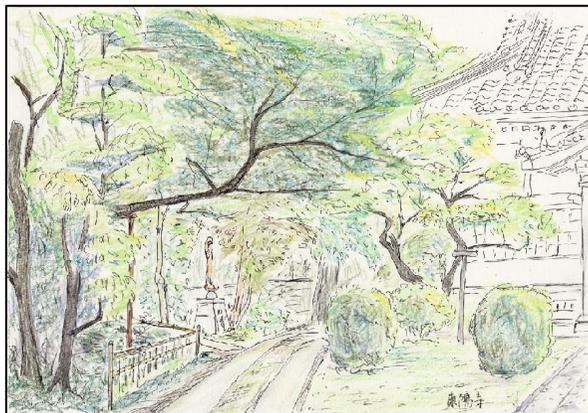
案内図

- (1) 根戸・布施の「縄文道」 ; 6km
- (2) 要塞の地、久寺家と我孫子宿 ; 4km



景観スケッチ 7題

春の東陽寺





妙蓮寺向い側の大変瀟洒な洋館と古い瓦屋根



“丘の道”からの筑波山 高橋 正美絵

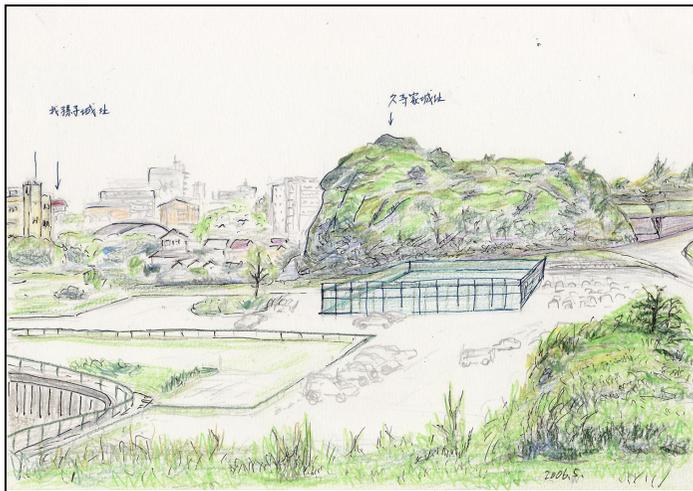


つくし野名所 5号公園メタセコイアの初夏

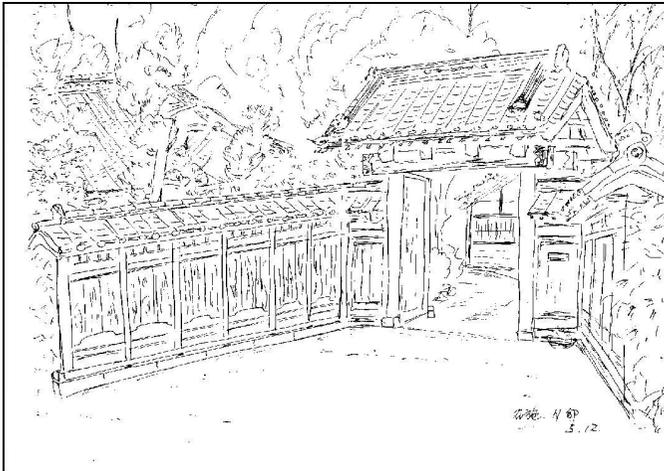
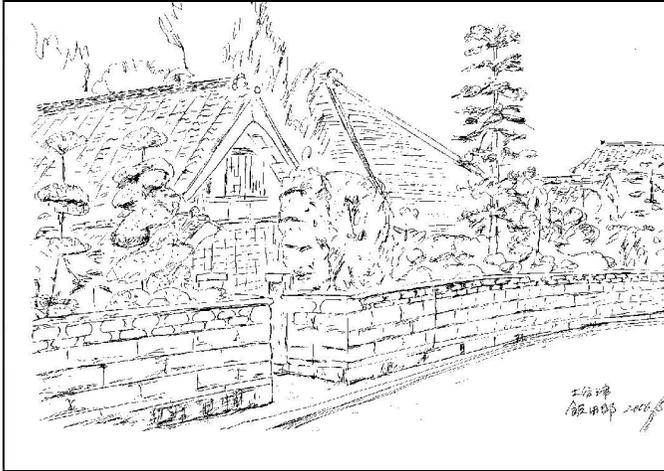
久寺家道・鷺神社入口付近 初夏



落葉折敷く久寺家の坂道

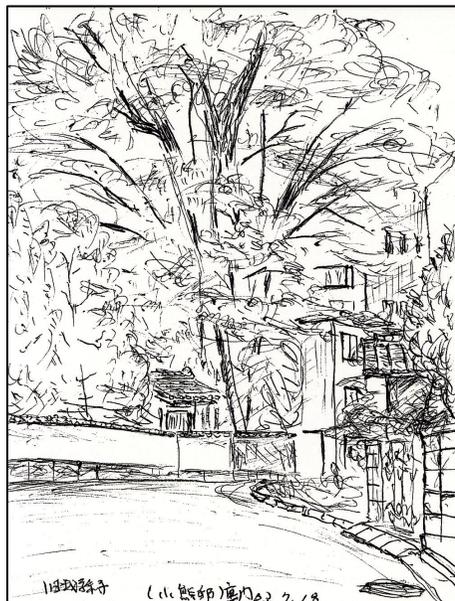


久寺家古墳の位置から見た二城の位置



布施の家並 一邸とN邸四足門

我孫子脇本陣裏の風景(平成17年)



第一節 歴史景観

(1) 根戸・布施の「縄文道」

布施に向うには北柏駅北口から入るのが良いでしょう。出た所は旧水戸街道です。由緒ある街道だけあって周辺は、寺と屋敷林の景観が多く見られます。東陽寺のほぼ斜め左には鬱蒼とした小森の中に供養塔があります。朽ち果てた仏像がありました。

当地は我孫子古墳群の西端に位置することもあるが、名だたる古墳は日立精機古墳、久寺家古墳しかありませんが、概して小さな古墳で、その数は当地の遺跡群の数40の内16です。遺跡から縄文土器片が出土しています。

近くの久寺家の尾根沿いには中谷遺跡、上居村付西遺跡、布施宮前の宮前遺跡などの縄文〜歴史時代に亘る複合遺跡があります。

縄文貝塚遺跡は、久寺家遺跡と台田の荒迫で認められているだけです。根戸・台田遺跡群の中で17遺跡が縄文以降のもので縄文人子孫の定住が考えられます。

こんな事からいろんなことを空想し古代ロマンに浸りながら、縄文〜歴史時代に繋がる遺跡の多い 根戸・台田遺跡群の畑地を歩くのはよいものです。

つくし野5号公園の春秋は、メタセコイアの若葉と紅葉が素晴らしいです。公園の左端を右折して突当たりの土手を右に迂回し、斜面の坂道を登ると久寺家道に出ます。右折して100m程先を右に入り山の坂道を登ります。尾根沿い東西に伸びる久寺家通り両側にはこんな坂道が数多くあります。

つくし野から南北に伸びる“丘の道”との交差点を左折すると秋から冬にかけての晴れた日には筑波山が見えます。(景観スケッチ参照)

久寺家通から入った二階堂高等学校先の登り坂を過ぎると、広い畑地と根耕地の家並が見えます。懐かしい田舎風景です。この小さな集落を抜け、堤防に出ると眼前に利根川までの1,500m間に広がる広大な北新田(田中調節池)の水田風景が見えます。ここは利根川の後背湿地で、かつては上流から、久寺家向えの土谷津沼、本願寺沼と柴崎上沼、下沼*3が広がっていました。堤防を400m歩くと「河口から8.8km地点」の標識があります。いかにも大利根川と感じ入ります(付図・2参照)。

水門手前の路を左折して布施の集落に入ります。瓦屋根の大きな日本家屋を見ながら歩くと「野口邸の長屋門」が見えます。この先は我孫子市布施と柏市布施が交錯し迷路に入った感じがしますが歴史ある豊かな集落で平和を感じます。

(2) 中世以降の手賀沼の狩猟景観

現在でも手賀沼には多くの野鳥が見られバードウォッチングが多くの人たちによって楽しまれていますが、鳥の舞う昔の手賀沼景観は如何だったのでしょうか。

中村 勝は*4によると享保期には、村役人層の特権的仲介制度があつて、江戸安針町の水鳥問屋に独占的に流通していたようです。しかし大正、昭和の沼縁鳥猟場は、手賀沼干拓のため鳥猟の共同猟業は収束しました。現在でも手賀沼には多くの野鳥が見られバードウォッチングが多くの人たちによって楽しまれています。鳥の舞う昔の手賀沼景観は如何だったのでしょうか。

三谷和夫氏の纏めた鴨猟関係年表*5から主だった狩猟の歴史を拾い上げてみました。

嘉元年(1303) 流しもち網発明による猟船の活躍

文禄元年(1592)豊臣秀吉に毎年元旦に真鴨2番、白鳥2羽献上

元和二年(1616)徳川家康に引続き献上

享保二年(1717)水戸様鷹場と定める

明治七年(1874)布施の雁獵の最盛期

明治十七年(1884)鶴がこの頃まで和田沼上空に飛来

明治三十六年(1903)ウノトリ、白鳥がこの頃まで和田沼に渡来

大正三年(1914)国有水面使用不許可銃獵禁制立て札建設、沿岸民有地を

獵場と定める

昭和十二年(1937)和田沼に雁2,300羽渡来

昭和三十三年(1958)沼西半部国設鳥獸保護区となり禁獵区となる

(3) 「戦国要塞の地」 久寺家(景觀スケッチ参照)

“久寺家通り”に沿って、つくし野七丁目の町並を抜けると、久寺家の宝蔵寺の森が見えます。この森の右端付近に久寺家城がありました。坂を登って100メートル程歩くと、右手に鷲神社の入口があり、鷲神社が見えます。

久寺家城周辺はもともと「藪沼」に通じた沼地でした。この入り江の奥には本城の我孫子城があり、合図で連絡が来ました。

江戸時代始めの東遷で、現在の利根川に代わると、移転先となった下流部は度重なる水害に見舞われるようになりました。布佐で堤防が造られた寛文十年頃から、久寺家でも入江口に堤防が造られたと考えられます。当時の堤防は、記録では天井幅二間、高さ一丈一尺、3メートル程度でありました。

久寺家1、2号古墳は、我孫子高等技術専門学校北にありました。周辺の字名は「橋戸」、昔は藪沼への良好な渡船場として栄えた処と思われまます。

(4) 我孫子宿

旧水戸街道(国道356)とのT字路交差点を右折すると我孫子宿の中心に来ます。白壁に囲われた茅葺屋根のお宅が我孫子宿名主小熊邸(脇本陣跡)です。反対歩道右側に 我孫子宿本陣跡があります。

宿場は公用、伝馬、飛脚を維持する制度上の集落です。安斎秀夫*6は我孫子宿の風景を次のように表現しています。『水戸街道と成田街道の合流点には松の大木があり、三叉に道陸神が祀つてある。…中心地の南側に大光寺があり、手賀沼が見える。…大光寺を中心として尾根状の台地に各所に集まる場所がある。家屋は往還路の両側にあるだけで、北側は山林、南側が畑で隠れる場所もない。…』

したがって、街道筋から少し沼側に入れば、手賀沼が何処からでも望めたようです。宿場は周辺の村からの助郷の制度による助人、馬差出しの協力で支えられていました。助郷は我孫子周辺の村は勿論、遠く花野井、松ヶ崎、篠籠田、柏、増尾周辺の合計二十九ヶ村に及びました。

第二節 名所解説

(1) 根戸・布施の「縄文道」

① 保全樹木の多い屋敷林(景觀スケッチ参照)

水戸街道沿いには二つの古い大きな寺、古い民家が多く、その屋敷林が落ち着いた景觀を作っています。それらの屋敷林の中には、妙蓮寺の櫓(ケヤキ)、銀杏、ムクロジ、棕(ムク)、東陽寺のモミジ、檜そして根戸の鈴木宅の柿などの保全樹木が多いです。

② 根戸・台田遺跡群

縄文から歴史時代にかけての包含地が広く分布しています。“根戸・布施の縄文道”コース周辺には24に及ぶ遺跡の発掘が行われていますが、根戸・台田遺跡群として囲われた地域には、縄文時代の9遺跡が分布しています。北の久寺家中学校内からは縄文土器、貝塚、古墳時代の集落跡が出土します。

③ つくし野4号公園（アビコビレッジ公園）

団地内の林のようで、リフレッシュできる公園です。

つくし野中央自治会の行っている公園、道路・中央分離帯などの公共スペースの清掃活動、街かどに四季折々の花々を植える美化活動などの景観づくりを行っていることが評価されて、平成十年度景観奨励賞を受賞しました。

④ つくし野5号公園（メタセコイア公園・景観スケッチ参照）

春は新緑、秋の紅葉と四季それぞれに印象的なメタセコイアの美しさがあります。メタセコイアはスギ科の落葉高木、幹は高く直生し、細い枝に葉が密生、冬には小枝が葉の付いたまま落ちます。分布は中国中部に多く、白亜紀以降、第三紀に地球上に繁茂した植物ですが、日本では第四紀に消滅しました。そのため化石に基いて命名された名前です。当時現生種に類似のものは知られていませんでした。その後中国四川省で現生種が発見されて「生ける化石植物」として話題になりました。巨木として知られるアメリカのセコイアに類似します。セコイアの葉は枝に互生しますが、メタセコイアは対生する点が異なります。

⑤ 久寺家道尾根の両側斜面には小さな坂が沢山あります。昔からの路は私

たちの会員の調べによると周辺を含めて12本もありました。昔からの生活道路で、その昔に返ったような風情を感じることが出来ます。

⑦ 北新田（田中調節池）

大正十五年に造られた田中遊水池は、面積は1175畝、その範囲は利根運河のある柏船戸から下流の我孫子北新田です。今こそ見事な耕地が広がっていますが、昔から、藪沼と呼ばれ、湖沼が広がっていました。利根川が流れるようになって水量が増し、洪水が繰り返され、川筋周辺の状況は変わったと考えられます。それを明治大正時代の地形（I 序 図2参照）に見ることが出来ます。利根川沿いの後背地に出来た沼は1畝弱の深さで、洪水時には、沼を含め河川敷一面が水面となりました。乾季には水面が干上がり、沼の大部分は草原と化し、わずかの水面を残すだけでした。沼には葦や水草が繁茂し、魚介類が生息しました。冬にはカモやガンが渡来し、張り網がはられ、昭和初期までは釣りや猟の名所となっていました。沿岸の土地は、洪水にならなければ儲けものという流作場として耕作され、検地は行われましたが、賦課されなかったと言うことです。

昭和二十五〜三十二年には、田中遊水池を越流堤のある調節池にする工事が建設省によって実施されました。そしてその地に戦後満州からの引揚者が入植し、戦後の食糧増産のため開拓が行われ北新田が誕生しました。

この田中調整池の南端、国道6号線の大利根橋手前には、洪水に備えた利根排水機場、新利根排水機場と隣接する青山排水機場があります。

⑧ 野口邸の長屋門（第二章表紙 参照）

当地は柏の布施と入組んでいる為、狭い農道部分が多い。長屋門は、江戸後期から財、地位ある家の象徴でした。当主野口善左衛門は老練な村助役でしたが、農業、教育でも功績を残しました。野口家は江戸時代の豪農の家柄で、天保年間(1830~44)に名主を務めました。明治二十六年に当家から士官学校卒業生が出たのを祝って其れまでの四足門を立て替え、長屋門は造られたものです。日露戦争ではその士官校生は大隊長として歴戦し村に凱旋しました。窓の鉄格子はドイツ製です。

(2) 「戦国要塞」の地 久寺家

⑪ 久寺家城址と ⑫ 宝蔵寺 (景観スケッチ参照)

城址は宝蔵寺境内東の台地にありました。城址の東寄りにある素掘りの井戸は、重要な中世遺構の一つです。岬地形の先端部にあつて、久寺家の谷と泉の谷の出口を見下ろします。その昔は、藪沼沿いの湿原(現在の北新田一帯)と、渡船場を見張る要害の地であつたといえます。

久寺家城は、我孫子城主、我孫子左衛門但馬守の支城で、土塁を築いただけの簡単な平山城です。城址からは、文明六年(1444)と永正十八年(1521)刻銘の板碑が出土しました。

宝蔵寺は元和三年(1617)建立です。同寺の大銀杏は、指定保全樹木です。以前は朝晩の六時に鐘を打っていましたが、付近から苦情があり晩だけとなりました。晩鐘は音の風景を造っています。大学側に抜ける坂道は「でえこおろしの坂」と土地の人の呼んでいます。坂に沿った宝蔵寺の擁壁は坂の上部を大石で組み、下部は小さな溶岩を使用した擁壁で全体として石の美しさを現した素晴らしい造形です。

⑬ 鷲神社(久寺家)

将門の家臣である久寺家豊後大炊左馬之助の氏神で、古くは「明神社」と称されました。鎮守鷲神社は元文二年(1737)の創建と言われる。祭神は日本武尊です。大鳥(鷲)神社、お酉様として一般に知られています。日本武尊が白鳥として三遷されたと言う白鳥伝説に由来するものです。

⑭ 森邸の庭園

森邸庭園は、ダイナミックな自然石の石組みと、繊細なツタ類をはじめとする植物が相まった自然景観の庭園を形作っています。斜面地を生かした道路への開放性は、人々の目を楽しませています。平成十六年に景観住宅賞を受賞しました。

⑮ 久寺家1, 2号古墳 (第二章表紙の景観スケッチ参照)

数少ない六世紀初の円墳と考えられます。スケッチの人物埴輪のほか円筒埴輪、朝顔花形埴輪を出土しました。我孫子地域では唯一の利根川沿いある古墳です。考古学的に子の神古墳群に類似しているといわれますが、地勢上は水域を監視する金塚古墳に類似した独立古墳群です。

⑯ 我孫子城址 (景観スケッチ、付図・2参照)

我孫子城址は、かつて旧手賀沼八景の一つとして「城山の春色」と評されました。今はその面影を探ることも出来ません。むかえにある森自動車のご主人の話では、この城山は三方が堀で巡らされ、井戸が在り、上は20⁰平方程の平

垣面になっていて、子ども達の良い遊び場でした。背後は並木の尾根道に通じて居る。城址は東から北に向かう谷津の出口を見下ろす舌状台地にあつたのですが、国道工事で崩されて現在は、国道6号線のドライブインになっています。

元亀・天正(1570～91)に高城胤辰たかぎたねしきの支配下にあつた我孫子左衛門但馬守の居城と伝えられます。数百ほひ北に支城の久寺家城があります。

(3) 我孫子宿

⑰ 我孫子宿名主(脇本陣)・(景観スケッチ参照)

小熊邸は平屋、屋根は分厚な茅葺です。天保二年(1831)の建築で、脇本陣役を持っていて公用客室は式台玄関、控え室、書院造り客間、床の間など計三〇畳、武具置場もあります。私宅は客室の西側にありますが、巧みに仕切られ、庭には屋敷神の天神様、厩舎、土蔵、物置がありました。大櫓けやきのある北側は馬繋ぎ場でした。小熊邸裏の道は、近年までスケッチに見るような重厚な景観が見られましたが、櫓は白壁の屋敷塀とともになくなりました。

⑱ 我孫子宿本陣跡(付図・2参照)

本陣は現存する元脇本陣の斜め西向に在りましたが、取壊される事となり、大正十年村川堅固に本陣離れの建物が買取られて、村川別荘母屋として保存されています。我孫子宿は江戸から5番目の宿場でした。

(4) その他

* 日立精機1号墳(開発で消滅)

我孫子古墳時代後期の七世紀前半の前方後円墳です。

石室の発達過程から見ると、日立精機2号墳―第四小古墳―日立精機1号墳の順に連続する三代の首長墳と考えられています。子の神、高野山の古墳には埴輪を伴いますが、白山、日立精機の古墳は、埴輪はありません。

** 日立精機2号墳(緑化協定区域)

我孫子古墳時代後期、七世紀前半の前方後円墳です。日立精機J R側の緑地協定区域内に、少し盛り上がって中央部に深い窪みのある古墳があります。元来はもつと多くの古墳があり、古墳群を形成していたと考えられています。2号墳は三段築造で長さ30ほひ、高さ2.5ほひ、前方部幅21ほひ、後円部径18ほひです。墳丘の周囲には堀があり、中央部には横穴式石室があります。残念ながら盗掘で遺体や副葬品は現存しません。六世紀の「子の神」と「高野山」では、勢力の中心が世代によつて異なる古墳群の間を移動していましたが、七世紀は入つて日立精機周辺に集中するようになり、我孫子地域の首長権が特定の家族によつて世襲的に継承される段階に変化したと考えられています。



根耕地の畑と布施の堤防



国道6号線沿いのドライブインの我孫子城址跡



参考
取手宿本陣
*7

